

## がん教育実施報告書

|                     |  |
|---------------------|--|
| 学校名                 | 広野町立広野中学校  |
| 実施対象者<br>(学年・保護者など) | 第2学年 全クラス (2学級: 54名)   |
| 教育課程の位置づけ           | 体育・保健体育 道徳 学級活動・HR活動 講演会・行事<br>その他 ( )   |
| 実施日時                | 令和 5年 9月 25日 (月) 14:20 ~ 15:10   |
| 打合せについて             | 【1回目】方法: 電話・メール 内容: テーマや実施内容のすりあわせ<br>【2回目】方法: 電話・メール 内容: 内容の詳細と配慮事項について   |
| 外部講師 職・氏名           | 職名 みちや内科胃腸科 院長 氏名 齊藤 道也 様  |
| 実施内容                | <p>【テーマ】がんという疾病について学ぼう</p> <p>【内容】がんについての基礎知識 (がん発生のメカニズム、日本におけるがんの現状、予防について、患者への理解と共生)</p> <p>第2学年の生徒を対象に、パワーポイントの資料を見ながら講義をいただいた。講義中は生徒へ質問を投げかけ、生徒の意見を引き出しながら講義を進めてくださった。特に、たばこの発がん性についてもお話をいただき、喫煙・受動喫煙の健康被害についても学習することができた。また、がん患者の思いを知ることで、がん患者と共生するために大切なことや寄り添う姿勢など、自分たちにできることについて考える機会になった。</p> <p>2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで命を落とすと言われる時代だからこそ、がんの存在を身近なものと捉え、がんに対する興味や関心がより高まった様子が伺えた。また、医師による専門的な知識を交えてのお話から、がんについての正しい知識を得ることができた講義であった。</p> <p>【講義を受けての事後指導】</p> <p>① 保健体育の授業にて、各クラスにおいて「がんの予防」を中心に体育教員と養護教諭でのITの授業を実施した。</p> <p>② 医師による講義の際も「がんの要因」について学び、適切な生活習慣を送ることでがんのリスクを軽減できると学んだことから、改めて「がんの要因」を男女別のデータ確認し、がんの要因にどのように</p> |

アプローチすればがんのリスクを軽減できるのか、データを踏まえながら「がんを予防するための新12か条」(がん研究振興財団)を作成するグループ活動を行った。作成する中で、適切な生活習慣と定期的ながん検診が、がんのリスクを軽減し、早期発見・早期治療につながることを振り返り学習した。

- ③ がんは身近な病気であり、「自分ごと」と捉えるためにも、自分なりのがん予防法である「がんを防ぐための3か条」を作成させた。



がんの要因と照らし合わせながら「がんを防ぐための新12か条」を作成する様子

成果と課題

【成果】〈生徒の感想〉

- がんは治らない病気ではないというイメージが変わった。防ぐことができる病気だから、予防しようと思った。
- 講演前はあまりがんに興味はなかったが、講演を聞いて、がんになったら損しかからないから、今から自分にできることをしようと思った。
- 講演を聞く前は、誰でもがんになる可能性があるとは思っていなかった。原因には遺伝が多いのかと思っていたけど、自分がどのような生活を送っているかでがんになりやすくなってしまおうのかを知ることができた。
- 何もしていなくてもなるものだと思っていたけど、がんは悪い生活習慣や喫煙など体に良くないことをしているとよりやすくなってしまおうものだとイメージが変わった。
- がん治らないものだと思っていたけど、講演後は、予防することができる病気であり、早期発見なら治すこともできると知った。

【課題】

- ① 家族の中に闘病中の方がいるという生徒もいたため、事前アンケートにより生徒の家庭環境や心情面などを把握し、指導に十分配慮する必要があると改めて感じた。
- ② 講演の内容を踏まえて保健体育の授業でもがんの予防について学習を行うことで、がんだけでなく生活習慣を振り返る機会となった。学習内容を深めるためにも講義後の振り返りの必要性を感じた。